

つくば市民白書 2012 実行委員会 第 2 2 回会合（第 1 0 回編集委員会）議案

日時：2012年5月12日(土)13:30-16:30 予定

場所：市民活動センター

議題：

- (1) 報告（経過、その他）
- (2) 協議
- (3) その他
- (4) 第9回編集委員会

- (1) 報告
(経過)

2012年4月21日(土) 第21回実行委員会(第9回編集委員会)

2012年5月12日(土) 第22回実行委員会(第10回編集委員会)

- (2) 協議
とくになし

- (3) 第10回編集委員会

①執筆進行状況

(5/12現在)予定数 54、提出数 43（及びコラム：予定 9、提出 7）

20120512 未提出原稿	執筆者	連絡
01-01 自治基本条例	野口修	4月末
01-02 行政組織に関する組織、運営問題	岡野	横井が連絡
01-03 つくば市の議会の問題	青木	4月末
03-07 新保育システム	山崎ひと子	書き直し中
04-07 文化行政公民館の地域交流センター化	横井美喜代	作成予定
04-08 男女共同参画社会	長田満江	矢澤（月末までに決定）
05-04 地域コミュニティ	野口修	4月末
07-03 オーガニックファーマーズヴィレッジ	柴原新一郎	書き直し中
07-05 農業		山本作成中
10-02 つくば市の学校敷地内の放射能汚染	塚田良夫	寺門連絡
10-04 脱原発に向けたネットワーク活動	小張佐恵子	矢澤連絡

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/173/9873/009879.html>

[トップページ](#) > [環境](#) > [3.放射線対策](#) > つくば市内空間放射線量率の測定結果

http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/010/226/osenjyokyochosamap.pdf

②査読（各編集委員）

③印刷原稿の準備(山本、野崎)
文章の精査、レイアウト、全体構成

④表紙（野口）

⑤写真

13枚、まだ不十分

原稿内容にそったものを用意できないか

⑥実行委員の後書き

⑦スケジュール

5月末完成予定だったが、延期する。

(4) 次回第23回実行委員会、第11回編集委員会

5月末～6月の土、日

土	5/26	6/2	9	16	23	30	7	14	21
日	27	3	10	17	24	7/1	8	15, 16	22

つくば市民活動センター

1月	1/29(日)会合(18/6回)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次稿完成、 ・構成検討、追加原稿 ・頒布計画作成
2月	2/26(日)会合(19/7回)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次稿完成 ・頒布計画検討 ・出版シンポジウム準備
3月	3/31(土)会合(20/8回)	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール1ヶ月遅らせる
4月	4/24(土)会合(21/9回)	<ul style="list-style-type: none"> ・最終稿確認予定(スケジュール遅らせる)
5月	5/12(土)会合(22/10回)	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿確認
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・印刷所へ出稿 ・印刷完了
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・頒布開始 ・頒布事務 ・会計中間整理
	出版記念シンポジウム	

つくば市民白書 2012 実行委員会
第 21 回会合（第 9 回編集委員会）まとめ

日時：2012 年 4 月 21 日（土）9:30-12:15
場所：市民活動センター
出席者：河村、山本、野崎、寺門、亀山、緒方、矢澤、矢作。川中、横井、野口、原田
議題：
（1）報告（経過、その他）
（2）協議
（3）その他
（4）第 8 回編集委員会

（1）報告
（経過）

①実行委員会

2012 年 3 月 31 日（土）第 20 回実行委員会（第 8 回編集委員会）のあと、4 月 5 日（木）横井、山本が JA 谷田部組合長にヒアリングを行った。

②風車問題、質問状と解答

亀山より、2 月 15 日、3 月 15 日に市長に出した公開質問状の回答について説明があった。4 月 4 日の質問状はまだ回答がない。

（2）協議

とくになし

（3）第 9 回編集委員会

①未提出原稿

未提出原稿を確認し、対応を決めた。

②表紙

野口が作成する。

③写真など

候補を募集し、ホームページに並べる。

④スケジュール

次回 5 月 12 日（土）に最終案を確認する。5 月末完成予定だったが、延期する。

（4）次回の日程

5 月 12 日（土）13:30-16:30 第 22 回実行委員会、第 10 回編集委員会
場所はいつもと同じ、つくば市民活動センターです。

（以上）

つくば市民白書 2011 目次、執筆者 2012.05.12							
章	項目	枚数	頁	執筆者	状況	ファイル(doc,pdf)	備考
	推薦のことば	1	1	田中重博			
	発刊にあたって	1	2	河村俊次		00-00-02-20120509	検討中
	目次	2	4				
			4				
	巻頭論文		4				
00-01	地方分権、地域主権とつくば	6	10	緒方章宏		00-01-20120426	
			10				
	1 市政と議会（野口修、亀山大二郎）		10				
01-01	自治基本条例	2	12	野口修	未		
01-02	行政組織に関する組織、運営問題	2	14	岡野 智	未		
01-03	つくば市の議会の問題	2	16	青木道子	未		
01-04	風車問題とつくば市政一地裁判決から最高裁判決まで	12	28	河村俊次		01-04-20120326	
01-05	市民によるパブリックコメント制度の検証	2	30	野崎浩司		01-05-20120213	
			30				
	2 財政（山本千秋、原田 泰）		30				
02-01	市財政の現状と問題点	15	45	亀山大二郎		02-01-20120418	
			45				
	3 医療と福祉（横井美喜代、寺門宏倫）		45				
03-01	国民健康保険税	1	46	永田尚人		03-01-20111206	
03-02	若年性認知症支援	3	49	渡辺隆生		03-02-20111128	
03-05	介護サービスの利用者の増加と介護報酬改定について	2	51	佐藤弘子		03-05-20120404	
03-07	新保育システム	2	53	山崎ひと子	未		
03-09	障害福祉計画を読む～移動支援事業編～	2	55	斉藤新吾		03-09-20120329subref	
03-10	地域福祉計画を読み込む	3	58	宮本次郎		03-10-20120329subref	
03-11	食源病克服の発信拠点に	3	61	矢澤容子		03-11-20120412	
			61				
	4 教育と文化（寺門宏倫、横井美喜代）		61				
04-01	統計・調査から見たつくば市の小中学校教育の課題	4	65	寺門宏倫		04-01-20120329	
04-02	高校統廃合その後	2	67	岡野一男		04-02-20120321(ed1)	
04-03	教育相談から考察するつくば市周辺の不登校問題	2	69	穂積妙子		04-03-20120329ref	
04-04	特別支援学校から見たつくば市の教育課題	4	73	寺門宏倫		04-04-20120321v3A	
04-05	つくば市の小中一貫教育の課題	5	78	寺門宏倫		04-05-20120503	
04-06	つくば市の学校給食の問題	4	82	寺門宏倫		04-06-20120329	
04-07	文化行政公民館の地域交流センター化	2	84	横井美喜代	未		
04-08	男女共同参画社会	2	86	長田満江	未		
			86				

5 まちづくり (河村俊次、野口修)			86			
05-01	都市計画決定に向けたつくば市への提言、12年目の解決策	9	95	酒井泉	05-01-20120418 05-01B-20120510	検討中
05-02	高齢化・過疎化する地域の問題点	2	97	小川矩宏	05-02-20120212	
05-03	自転車が安全に快適に使えるまちに	4	101	矢作榮一	05-03-20120421	
05-04	地域コミュニティ	2	103	野口修	未	
05-05	地域・広域防災対策とつくば行政	4	107	高松邦夫	05-05-20111222	
05-06	戦陣の地域自給の暮らしを学ぶ「歩いて発見！マップ」	2	109	江口肇	05-06-20120107	
05-08	高齢者と交通問題	2	111	宮本次郎	05-08-20111223	
05-09	物づくりを通して第2の故郷づくり	3	114	新井孝蔵	05-09-20120129	
			114			
6 環境 (矢澤容子、早川公)			114			
06-01	つくば市の環境行政－第2次つくば市環境基本計画を読む	8	122	原田 泰	06-01-20120418	
06-02	測ってわかる大気汚染”NO2”	4	126	安田早苗	06-02-20120508	
06-04	花室川の環境調査を通しての環境教育	3	129	田上公恵	06-04-20120226	タイトル検討
06-05	わが家のCO2削減作戦	2	131	宮澤伸一	06-05-20111215	
06-06	つくばエコライフフレンズの活動	2	133	宮澤伸一	06-06-20111215	
06-10	アダプト・ア・パークのとりくみ	2	135	飛澤誠	06-10-20111202	
06-11	アースデイつくばの20年とこれから	2	137	辻本善信	05-11-20120505	
			137			
7 産業 (原田泰、学研労協)			137			
07-01	つくば市の産業	2	139	原田泰	未	
07-02	農と人をつなぐユートピアの取り組み	2	141	柳瀬敬	07-02-20111215	
07-03	オーガニックファーマーズヴィレッジのとりくみ	2	143	柴原新一郎	未	
07-05	農業	2	145	山本千秋	未	
			145			
8 観光 (担当編集委員:早川公、矢澤容子)			145			
08-01	つくば市「観光」の現状と課題(総論)	2	147	早川公	08-01-20111221	
08-03	筑波山周辺の観光と自転車	2	149	有野真由美	08-03-20111222	
08-05	筑波山・つくば山麓観光における情報流通において	2	151	笹沼誠	08-05-20111221	タイトル？
08-06	筑波山のブランド化に向けた方向性	2	153	野末たく二	08-06-20111221	
			153			
9 科学技術と平和 (学研労協、副査未定)			153			
09-01	科学技術都市としての環境整備とまちづくり	2	155	池永	09-01-20120423	
09-02	ロボットの町つくばと産官学連携	2	157	比留川博久	09-02-20120216	

09-03	職場研究者の平和活動	3	160	岡田安正		09-03-20120212	
09-04	地域の平和活動	2	162	伊藤清子		09-04-20120225	
09-05	谷田部飛行場と戦争の歴史	4	166	根崎孝志		09-05-20120331	
09-06	テレジン収容所の小さな画家たち展	2	168	関谷和子		09-06-20120324	
			168				
10	放射能問題(緒方章宏、原田 泰)		168				汚染地図の追加
10-01	放射線に対する市民の運動と行政対応・議会の役割	2	170	田中サトエ		10-01-20120324ref2	
10-02	つくば市の学校敷地内の放射能汚染	2	172	塚田良夫	未		
10-04	脱原発に向けたネットワーク活動	2	174	小張佐恵子	未		
10-05	電力自由化で自治体の電気代を節約しよう	2	176	金子和雄		10-05-20120204ref1	
			176				
コラム	よりよい市政へ 私のひと言		176				
11-01	地域高齢者の生活支援活動	1	177	田口孝		11-01-20120419eit2	
11-02	エコドライブ実践	1	178	山本千秋	未		
11-03	安全食品を考える会と共に	1	179	日比野光子		11-03-20120206	
11-04	筑波山ゆかりの名物あれこれ	1	180	鈴木博夫		11-04-20120222	
11-05	裁判官も人の子	1	181	亀山大二郎		11-05-20120304	
11-06	チョウザメをつくばの特産品に!	1	182	酒井幸広		11-06-20120313	
11-07	制度に翻弄される障がい者とその家族	1	183	児玉正文		11-07-20120317	
11-08	緊急通報システムの有料化にひと言	1	184	米谷宏			ファイルなし
11-09	宝篋山ルポ		184	原田 泰	未		
11-10			184				
11-11			184				
11-12			184				
			184				
	実行委員会 白書発行の経過、委員名簿など	3	187				
	あとがきー編集チームから	1	188				
			188				

(発刊にあたっての原稿：2012.05.08 河村)

発刊にあたって

2012年3月11日、東日本大震災とそれに伴って発生した津波と東電・福島第一原発事故は、国の有りよう、人々の心の持ち方をも変えてしまうほどの壊滅的被害を受けました。東北3県だけで死者15,854人、行方不明者3,276人(2012.3)という痛ましい惨事となりました。原発事故の放射能被害では、今もって16万人余りの方々が不便な避難生活を強いられ、故郷に帰られる見通しも起らない状況が続いています。放射能の汚染は、空、海、大地に広がり、農作物や海産物などの被害はもとより、風評被害は外国にまで及んでいます。

原発はクリーンで安全なエネルギーだと喧伝し、安全神話で国民を欺いてきた政府・官僚・電気業界・マスコミなどの利権集団の罪深さは計り知れないものがあります。

私たちは、あらゆるものを育み進化させてきた緑の地球を、放射能や温暖化ガスで傷つけ劣化させている事実を、謙虚に受け止め、反省する必要があります。温暖化を防止し、太陽光発電や風力発電、地熱発電などの再生可能エネルギーを開発・普及し、省エネルギーを促進し節電を心がけて持続可能な社会を創っていくことが、今を生きる私たちの未来に対する責任です。

つくば市では、東日本大震災で電気、水道のライフラインが一時的に絶たれ、飲み水を求めて給水車を待ち、パンや弁当などの食料品が店頭から姿を消し、灯油や自動車燃料を求める人でガソリンスタンドに朝早くから長い列ができるという状況となりました。

市内の建物等の被害は、公共施設の損壊204件をはじめ全壊・半壊した家屋が約480件にも及びました。道路の陥没・亀裂やその他、上下水道施設の被害、屋根瓦や塀の損壊も数多く出ました。

東電・福島原発事故によって、つくば市に降り積もった放射能は、国が定めた除染基準を上回る箇所が多く見られ、子供を持つお母さんたちが先頭に立ち、学校関係者と一緒になって線量計を持って校庭や通学路、公園や排水溝を計測し、行政に働きかけて除染を促してきました。

2012年5月6日につくば市北条地区で発生した竜巻は、幅500m、長さ15kmにわたって約800棟の建物を損壊し、死亡者1名、37名が負傷するという甚大な被害をうけました。自動車が吹き飛ばされ、電柱や大木がなぎ倒された傷跡は、東日本大震災を思わせるほどの状況となりました。

亡くなられた方のご冥福と被害を受けられた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

「つくば市民白書2012」では、地方の時代と言われる中で、つくば市政・議会を改革するには、日本国憲法の位置づけから「憲法原則に則した住民自治」を目指して、住民自身が市政運営に参加し行動する民主主義に方向転換することが「住民主権」につながると巻頭言で論じています。

「つくば市民白書2012」では、つくば市の超大型事業としてバブル期に先行投資したTX沿線開発の行方と膨大に膨らんだ赤字財政が、つくば市の財政に大きく陰を落としていると警鐘をならしています。また、市原市長が公約した自治基本条例は、はたして市民参加・情報公開・説明責任が貫かれた「市民が主人公」としての条例として制定させることになるのかどうか。

市民の意見を市政に反映させる場としてのパブリックコメント制度について、その制度の運用状況を市民目線で検証し、その実態を明らかにすると共に改善策を提言しています。

住民による住民のための民主的な市政を、今後つくば市民自らが創っていくという重い課題に対し、私たちの持つ市民力がこれから試されることになるのではないのでしょうか。

「つくば市民白書2012」では、大震災や原発事故・竜巻被害などから地域防災組織の重要性や原発事故に対する対応も欠くことのできない課題となりました。また、原発事故を契機に、行政施設の電気代を節約するために、電力自由化(PPS)の活用を市民が提案し実現されました。

その他にも「回らない風車」として全国的に注目されていた風車訴訟が8年越しに結審し、つくば市の公共事業優先、無駄使い行政の実態が裁判を通して検証されました。

「つくば市民白書2012」では、市民生活に直結する暮らしや福祉、つくばの教育問題などの施策と高齢化する地域問題、環境行政のあり方、科学技術、観光、まちづくり、平和問題等の広範な課題を市民目線で調査・分析し、問題点を指摘し改善策を提案しています。

今回の「つくば市民白書2012」では「よりよい市政に私も一言」のコラムと共に、地域でいきいきと活動する市民の実践的報告が多く寄せられました。

東日本大震災・原発事故・北条地域を襲った竜巻被害では、つくば市はもとより全国から被災地へ救援物資が届けられ、多くのボランティアが活動し、人々の連帯と共助が広がりました。

つくば市では、水道・電気などインフラが途絶えたとき、素早く井戸水を提供する自発的な援助が各地区自治会や市民団体、NPO法人、個人等から発信されて、人々の絆、地域の絆、家族の絆の大切さ、地域コミュニティーの重要性が再確認されました。

平和なときには気付かなかった他への思いやりや共助の大切さを、市民の多くの方々が大震災や竜巻災害を通して再認識されたのではないのでしょうか。

平穏で争いのない平和なまちでありたい、思いやりのあふれる安らぎのあるまちでありたい、水と緑、きれいな空気と青い空の下に暮らしたいという、つくば市民が願っている素朴な思いを「つくば市非核平和都市宣言」と「つくば市市民憲章」は、つくば市政をつらぬく崇高な理念として定め、内外に明らかにしています。この理念は、つくば市民が共有する願いであり、つくば市民が享受すべき共通の権利でもあります。

行政はもとより、私たち市民としても、この崇高な理念を絶えず心に刻みながら啓発し続け、つくば市民が平和で過ごせる“まち”となるように協力・共同して努力していく必要があります。

「つくば市民白書 2012」は、「つくば市市民憲章」の理念が市民に広く深く根付くように再び冒頭に記して、みんなで確認し合いたいと思います。

**豊かな自然と悠久の歴史にはぐくまれたまち、つくば、
私たちは、異なった価値観や文化を認め合いながら、
互いを尊重し、ともに手を取りあって、未来に向かって、
発展するまちをつくります。(つくば市民憲章より)**

つくば市のまちの隅々から、「つくば市市民憲章」の理念が、草の根のように広く深く根付いていくように「つくば市民白書 2012」を多くの方々に購読していただきたいと願っています。

2012年7月

つくば市民白書2012実行委員長
河村俊次

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/173/9873/009879.html>

[トップページ](#) > [環境](#) > [3.放射線対策](#) > つくば市内空間放射線量率の測定結果

http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/010/226/osenjyokyochosamap.pdf